

2 きゅうたけ むら こ ふく てん てん ぼ しゅ おく ど そ う 旧竹村呉服店 店舗・主屋・土蔵 3棟



登録 国登録有形文化財（建造物）申請中
所在地 佐川 東町^{ひがしまち}
年代 江戸時代中期

現存する店舗と主屋は木造 2 階建てで、店舗は天保元年（1830）頃、主屋は安永 9 年（1780）頃に建てられ、当初は別棟だった蔵が後に改修で一体化したとみられる。

店舗の外壁は海鼠壁^{なまこ}で、蔵の部分は格子柄を斜めに配した四半張りとし、アクセントをつけている。主屋の 1 階は長押^{なげし}を回さず地味な設えだが、2 階は華美な仕様の欄間などがある。

土蔵は明治時代中頃の木造 2 階建てで、東・南面は漆喰壁、西・北面は一部板張りである。

国指定重要文化財「竹村家住宅」の西隣に位置するこの町家は、竹村本家から安永 6 年（1777）に分家した家系で、代々安右衛門を襲名した。当初は質屋を営み、のちに呉服商及び雑貨商へと発展し、屋号を㊦と称した。

3 代安七の頃、土佐国西部では唯一の絹物商として繁盛した。この安七が店舗と住居を別棟として内部を連続させた 2 階建ての立派な家を新築したことが、竹村家文書により伝えられる。家業は順調に進展したが昭和初期に廃業し、貸家とした。

平成 26 年（2014）6 月、この土地建物が佐川町に寄贈された。耐震改修工事後、平成 28 年（2016）10 月から 1 階の 1 部を貸出し、店舗として活用を行うとともに一般公開している。

3 たけ むら け ど そ う
竹村家土蔵 1 棟



登録 国登録有形文化財（建造物）申請中

所在地 ひがしまち 佐川 東町

年代 明治時代後期

土蔵は木造 2 階建^{かわらぶき}の瓦葺で、3 段の水切り瓦と土佐漆喰の白壁と緑色に映える銅板の窓が 2 段あり、そのコントラストが美しい。土蔵は中央部が 2 つに仕切られ、出入口が 2 箇所ある。

基礎の石垣はチャートの亀甲積み^{きっこうづみ}で中央部を膨らませた大石が使用され、複雑な色彩で野趣豊かな仕上がりとなり、土蔵全体の重厚感と背景の山の緑が渾然一体となって素晴らしい美を形成している。

この建物の敷地は、竹村家住宅が面する道路のさらに南の山麓部に位置する。

明治時代の竹村家の姿を描いた「明治指図」には、西にもう 1 棟の土蔵が建っており、計 2 棟の土蔵が描かれているが、現在は東側の土蔵のみが現存する。

■ 佐川町指定外文化財

佐川町指定外文化財

番号	名 称 (所在地)	種別	内 容
1	えいらい せきとう 永頼の石灯 (佐川 青源寺)	史 跡	総高 3.5 メートル。版籍奉還後、深尾家の高知移転に伴い、旧臣土格が深尾家に感謝のため建立した碑で、台石に 87 人の名が刻まれている。
2	なかむらえちぜんのかみしどう 中村越前守祠堂 (佐川 松崎)	建造物	松尾城主中村越前守の祠堂といわれている。時代の変遷で度々場所が移動している。
3	きっこうがた いしかべ 亀甲型の石壁 (佐川 東町)	建造物	高さ 2.8 メートル、横幅 5.6 メートル、奥行 60 センチ。チャートで亀甲型に積まれているが、東の方の一部が損壊している。
4	やくし にょらい ず し 薬師如来厨子 (佐川町総合文化センター)	工芸品	元黒岩源重薬師堂にあった薬師如来の厨子で、内部に十二神将が描かれている。
5	つかさぼたん こうぐら 司牡丹 1 号蔵 (佐川町 東町)	建造物	司牡丹酒造(株)の酒蔵で長さが 85 メートルあり日本有数の長さを誇る。



1



2



3



4



5

番号	名 称 (所在地)	種別	内 容
6	ながたけ こびぜんつぼ こせん 長竹の古備前壺と古銭 (佐川町総合文化センター)	工芸品	家の増築で基礎部分を掘削中に出土した室町時代の古備前の壺で、中に古銭と土師質土器（かわらけ）が入っていた。
7	いわいぐち いたび 岩井口の板碑 (斗賀野 岩井口)	史 跡	高さ 1 メートル、横幅 64 センチ、厚さ 27 センチ。高吾北唯一の時宗関連板碑で、室町時代のものである。
8	と が の がわいちまいし ばし きねん ひ 斗賀野川一枚石橋の記念碑 (斗賀野 二ノ部)	史 跡	高さ 2.1 メートル、横幅 3.2 メートル、厚さ 45 センチ。佐川より須崎に行く往還に架けられていた石橋で、今は記念碑として建てられている。
9	ふか お じんじゃもく ぞうこまいぬ 深尾神社木造狛犬 (佐川町総合文化センター)	工芸品	けいしゆくだいみょうじん 元景肅大明神に奉納されたケヤキ材でつくられた狛犬で、台座にいわれと家臣 18 人の名が刻まれている。
10	だいじゅう わきょう 台住の和鏡 (佐川町総合文化センター)	工芸品	きょうばん 鏡板径 11.3 センチ、厚さ 6 ミリ。黒岩の台住寺上方の畑より出土した和鏡で、鎌倉末～南北朝時代のものである。



6



7



8



9



10

番号	名 称 (所在地)	種別	内 容
11	ゆうせい じ ぞうどう あまの じゃく 祐清地藏堂天邪鬼 (尾川 祐清地藏堂)	工芸品	佐川町内の堂舎の中で、左右海老虹梁 ^{えび こうりょう} の上に乗り笑みをたたえた天邪鬼は他に無く貴重である。
12	しらくら じんじゃ さいれい え ま 白倉神社祭礼絵馬 (斗賀野 白倉神社)	絵 画	盛大な祭礼時の様子が描かれており、行き交う大勢の人々や花台の山車も出て大いに賑わっている様子が分かる。
13	おおづつ はっぽう え ま 大筒発砲絵馬 (青山文庫)	絵 画	深尾家足軽戸梶百助の膝撃ち発砲図である。美都岐神社に奉納されていた絵馬で、大筒発砲の様子が分かる貴重なものである。
14	つ なみ そうどう え ま 津波騒動絵馬 (斗賀野 入寺山公民館)	絵 画	嘉永 7 年 (1854) 11 月 5 日に大地震が起こり、斗賀野峠を越えて大津波がくるとのデマが斗賀野村中に拡がり、山頂へ逃げる人々や大岩が落ちる様子が描かれている。



11



12



13



14

番号	名 称 (所在地)	種別	内 容
15	よこぐら じ りていせき 横倉寺への里程石 (佐川川内ヶ谷)	史 跡	佐川～越知往還の間にある文政 2 年 (1819) 銘の里程石で、横倉寺まで 48 町、奥ノ院まで 2 里 5 町ある。
16	さかわふか お け ぼしよ 佐川深尾家墓所 (佐川 青源寺)	史 跡	青源寺裏山にある初代重良から 11 代重愛までの墓所である。
17	ふか お ど い や しきあと 深尾土居屋敷跡 (佐川 紫園)	史 跡	当時の土居屋敷は、古城山の東麓に東西 71 間、南北 178 間の広さがあった。現在も井戸跡や平地、馬場跡が残る。
18	おきの こじょう ど い の もんあと 沖之古城土居之門址 (佐川 三野)	史 跡	沖之古城といわれる中世の平城跡で、東西 70 メートル、南北 80 メートルの広さがあった。この碑は城跡があったといわれる場所の西端にあたる。



15



16



17



18

番号	名 称 (所在地)	種別	内 容
19	おがわじょうせき 尾川城跡 (尾川 中村)	史 跡	ちかざわしやうげん 近沢将監祐清の居城と伝わっている。 くるわ ど ろい ほりきり うねじやうたてぼり 郭、土塁、堀切、畝状豎堀が残る。
20	と が の じやうせき 斗賀野城跡 (斗賀野 二ノ部)	史 跡	長宗我部氏に討たれたといわれている よね もり げん ぼ 米森玄蕃の城跡で、城の南に戦死の碑が 建つ。郭、豎堀が残る。
21	くろいわじやうせき 黒岩城跡 (黒岩 黒原)	史 跡	黒岩氏、片岡氏の居城跡で、背後の土 塁は高さが約 5 メートルあり、他に詰ノ 段、堀切が残る。
22	ながたけじやうせき 長竹城跡 (加茂 長竹)	史 跡	城主は不明だが矢野玄蕃、片岡出雲守 等が居城したといわれている。郭、堀切、 畝状豎堀が残る。



19



20



背後土塁

21



22

番号	名 称 (所在地)	種別	内 容
23	にしだに めいすい 西谷の名水 (佐川 西谷)	天 然 記念物	土佐の名水 40 選の一つで、傍らに「むすぶより 早や齒にひびく 清水哉」の芭蕉の句碑が建つ。
24	なかやま 中山のイチイガシ (佐川 中山)	天 然 記念物	目通幹周り 3.9 メートル、根元周り 6.8 メートルの大木で、木のまわりは道路が通っているせいか、他の樹木を圧倒し、遠くからでもよく見える。
25	くじらざかはちまんぐう しゃそうりん 鯨坂八幡宮 社叢林 (黒岩 庄田)	天 然 記念物	樹種も多くイチイガシ、スギ、シイ等の大木が神社境内を覆い隠して鎮守の杜を形成している。
26	し せい ち キンモウワラビ自生地 (尾川 尾川西山)	天 然 記念物	メシダ科のシダで石灰岩の割れ目に生えており、根茎にはおびただしい金褐色の鱗片を密生させている。



23



24



25



26